



授業

廊下で英語のM田先生と一緒にいたら、先生が「13Rはかわいいですね～」とおっしゃっていた。「六分の恐怖と四分の好奇心とに動かされ」た私は、「本当ですか?」「単に1年生だからじゃぁないんですか?」と聞いてみたのだが、授業に一生懸命取り組むし、授業中の表情も真剣で、授業に行くのが楽しいとのことである。お～!

授業担当の先生に愛されるというのは幸せなことである。もちろん、我々教員もプロだから、クラスに対する好き嫌いで授業がどうのこうの…ということは無いようにはしている。とはいっても我々も人間(人間です…笑)100%差がない授業をしているかと聞かれると、「そうなるように努力しています」と答えるしかないだろう。

好きなクラスでは、自然と話がはずむものである。学級日誌に「教科書以外のことは面白い」とか「先生が面白い」と書かれているが、その先生の本当の素晴らしさは、一見「雑談」のように見える(聞こえる)ことのなかにあるのではなかろうか。そして、好きなクラスほど、そういう「雑談」に花が咲くのである。逆に、気乗りがしないクラスだと、さっさと「教科書」を終わらせてしまおうという気分になる。だから、「雑談」に時間を費やすことなどしなくなってしまうのである。

おもしろい、楽しい、ガッテン!と感じたことがあったら思いっきり笑う、しかし、先生が授業の本筋に戻ったら、サッと集中を取り戻して、真剣な眼差しを先生方に向ける。こういうことが自然にできるクラスは、どの先生からも好かれるのである。そして、どの先生からも、最高の授業を受けることができ

るのである。13Rは、そんなクラスになりつつあるのだろうか…?

*

昨日で第1回目の面談が終わった。015号の「エア面談」でも報告したが、みんな高校での授業の早さと、周囲の一見?頭良さそうに見える友だちに圧倒されているようだ。しかし、圧倒されているあなたも、誰かに恐怖?を感じさせているに違いない。「下人」が老婆の姿をよくよく見るにつけ、「恐怖が少しずつ消えていった」とあるように、だんだん化けの皮がはがれるモノである(笑)。

しかし、化けの皮がはがれた後にこそ、君たちの本当の努力が問われることになる。中学時代との違いを早く認識し、それを実際の自分の勉強にきっちり生かすことが大切だ。

そういえば、昨日配った第1学年の進路通信「PATH」、タイトルやデザインも素敵だが書いてある内容も素晴らしかった。いったい誰があんな素晴らしいことを書いているのだろう…。ははは…。

で、繰り返すが、大切なことは授業をしっかりと消化・吸収していくことである。そして、そのためには、予習・復習ということになる。その計画(各曜日の勉強の割り当て)を、授業の雰囲気も分かり、部活の日程の分かってきたこの連休中に、ぜひもう一度振り返ってみよう。そして、それを連休以降の勉強でコツコツ実践することだ。

分からないことをそのまま放置しないことも大切。先生、そして、友だちに遠慮なく質問してみよう。そして、みんなでレベルの高い日比谷の授業を乗りきっていこう。